

げんき No.58

カエル



兵庫県立こども病院
ニュースレター



平成 29年(2017) 8月1日

「子どもたちの笑顔が弾けた」

東京ディズニーリゾート・アンバサダーとミッキー・マウス・ミニーマウスの病院訪問



株式会社オリエンタルランドは、東京ディズニーリゾートを訪れることが難しい子どもたちに「ディズニーの夢」を届けるため、東京ディズニーリゾート・アンバサダーとディズニーキャラクターが全国の施設を訪問する活動を実施されています。東京ディズニーランドオープン前の1982年から継続実施している取り組みで、2015年には24ヶ所の施設を訪問されています。今回5月22日に東京ディズニーリゾート・アンバサダーとミッキー・マウス・ミニーマウスにこども病院を訪問して頂きました。

今回の病院訪問は、入院生活を余儀なくされている子ども達が、ディズニーDVDや絵本を見ることで心なほし、ディズニーキャラクターのぬいぐるみやグッズなどを持つことで心の支えとしている姿を日々見ていました。アンバサダー、ミッキー・マウス、ミニーマウスに病院訪問して頂くことは子ども達が楽しい夢を感じ、楽しい時間を過ごす

ことで、笑顔になれるようにという私たちの思いでした。約3年前に看護部の看護師長補佐会で企画し、病院訪問依頼の手紙を株式会社オリエンタルランドへ送ったことで実現へとつながりました。

病院訪問をして頂き、アンバサダー・ミッキー・マウス・ミニーマウスと触れ合ったことで、入院中の子ども達やご家族は大変楽しい夢を感じられ、笑顔が弾けました。お友達になったことでディズニーランドに遊びに行き再会したいという新たな目標ができ、入院生活や治療に、より前向きになり励みにもなっています。

今回、病院訪問をして頂いた株式会社オリエンタルランド・スタッフの皆様には心から感謝致します。

看護師長補佐会

河野 早苗

井口 秀子





小児救命救急センターに指定されました!!

副院長兼小児救命救急センター長
上谷 良行



本年4月1日より、全国で13番目、近畿圏では初めての小児救命救急センターに指定されました。この小児救命救急センター運営事業は、成人の救命救急センターと同様に生命に危険が及ぶ重篤な小児患者を確実に安全に受け入れる体制を作るために、国が作った事業です。当院もこれまで以上に重篤な患者をヘリコプターなどで広域から受け入れ、適切な医療を提供していきたいと思っています。

当センターの救急患者の入り口は、超緊急の場合に直接PICUという小児の集中治療室に入院することがありますが、原則的には救急外来で、救急科のスタッフ(写真のような精鋭たち?)が診療を担当します。最近は救急患者を医療施設等に当院の救急医が直接救急車(ドクターカー)で迎えに行き、安全に当院まで搬送するようにもしています。

ヘリコプターは昨年病院がこの地に移転して屋上にヘリポートが設置されて以来、年間で49回飛来(移転前は年間9回のみ)、救急車の受け入れも年間1200件(移転前は

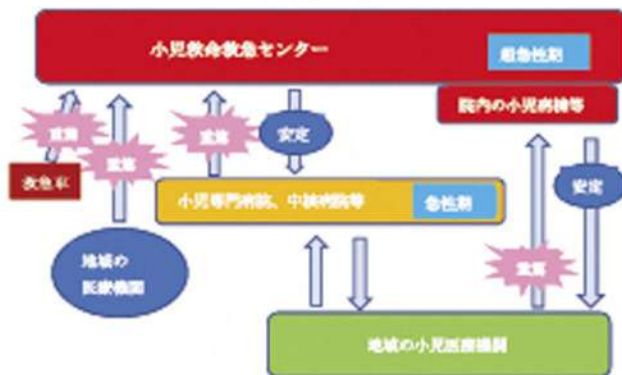
600件)と急増しています。

救命救急センターに指定されたことを契機に重篤な患者のみならず、軽症の患者もすべて受け入れる体制で臨んでいます。救急外来に患者さんが来られると、トリアージと言って看護師が決められた手順で緊急度をチェックして、緊急度の高い人から診察に回ります。ですから診察順は受付された順番では必ずしもありませんのでご理解ください。

この新しい救命救急センターを病院全体で支え、こどもたちの安心、安全のための最終ラインとなるように日々努めたいと思いますので、ご期待ください。



小児救命救急センターのイメージ



(参考資料)厚生労働省医政局指導課「小児救急医療体制の現状」

救急総合診療科 総合診療部門のご紹介

救急総合診療科
科長 田中 亮二郎

当院は小児専門病院であるため臓器別、疾患別に専門分野が細分化され、複数の臓器に問題を抱える患者さんであっても単一科で診ているケースもありました。しかし、患者さんから多様な医学的問題に関して多角的に診療をおこなって欲しいというニーズがありました。当科の総合診療部門はそのニーズに応えるために2017年4月に4名の新任医師を加え、新設されました。また小児救命救急センターの救急外来から入院となった

患者さんの対応や検診・予防接種を含めた予防医学も当科の大きな役目です。それぞれの医師のキャリアは異なりますが、チームとして“こどもにとって最善の利益を目指し誠実かつ謙虚に診療し、地域医療への貢献と小児医療の進歩に邁進すること”を常に考え日々の診療を行っています。どの専門診療科に紹介してよいのかわからない時にもご遠慮なく相談してください。必要に応じて各専門診療科への橋渡しも致します。



- 上 谷：患者さん・ご家族から信頼されるように頑張ります。
田 中：総合診療部門はまさに院内の核となる診療科です。
上 村：Do the basics, better.の精神で頑張ります。
津 田：こどもと家族、地域のために尽力します。
藤 田：こどもたちが元気にお家に帰れるよう尽力します。
張 　：こどもたちの未来のために、謙虚に誠実に医療に取り組みます。
倉 橋：こども達の支えになれるように努力します。



院長就任にあたってのご挨拶



病院長 中尾 秀人

平成29年4月1日より、院長に就任いたしました中尾秀人です。

長く兵庫県内の周産期医療に携わり、平成6年の周産期医療センター開設以来22年間、新生児医療に従事して参りました。この間、多くの貴重な経験を積んで、患者さんから学んだ事は私の宝物となっています。阪神大震災の時に診療していた、あの小さな新生児が、すでに成人を迎え、成長した姿を見られる当院で、院長に就任した傍々に感慨を覚えると共に、重責に身の引き締まる思いであります。

さて、昨年5月に新病院での診療を開始し、すでに一年余りが経過いたしました。新しい設備や機能を生かして、診療が充実し改善されたところがある一方、まだまだ工夫が必要なところも少し

ずつ見えてきました。こども病院の力をもっと発揮するべく、就任に際し目標の一つとして、“連携と協働”という心がけをあげてみました。病院では、多くの職種の方が、それぞれに重要な役割を担って業務を実施しております。診療を安全に、迅速に遂行し、患者さんご家族に、安心・満足を提供していくには、各職種が互いの役割を理解し合い、協力していくことが是非とも必要です。それぞれ専門性の高いところは改善したけれど、連携が活用されずに、患者さんやご家族には十分伝わらず、お互いに歯がゆい思いをすることがあってはなりません。できれば1たす1が3にも4にも成るように工夫できることを目標の一つにしています。忠告やご助言もいただければ、嬉しく存じます。

病院の基本理念を肝に銘じ、ご家族と地域社会と一体となってこどもたちのすこやかな成長を目指して、職員一同、心を一つにして歩みを進めて参りたいと存じます。今後とも、ご理解とご支援を宜しくお願い致します。

Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- **基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

ポートアイランドへ移転して2回目の夏を迎えました。新しい動きとして4月に新発足した救命救急センターと救急総合診療科の紹介をいたしました。次号からは編集方針を見直し、一般向けのやさしい医療解説や病院機能の紹介を盛り込んでいく予定です。知りたい事柄がありましたら、広報委員会までご希望をお寄せください。編集の参考にさせていただきます。(O)

編集委員長：大津雅秀
 編集委員：陣岡繁志 谷本江利子
 橋本ひとみ 新井隆浩
 山口善達 坂田亮介
 笠木康一 井口秀子
 山本正子 沼田尊作
 大前隆広 近藤由敬
 中嶋元樹

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
 HYOGO PREFECTURAL
 KOBE
 CHILDREN'S
 HOSPITAL

〒650-0047
 神戸市中央区港島南町1丁目6-7
 TEL 078-945-7300
 FAX 078-302-1023
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
 e-mail: info_kch@hp.pref.hyogo.jp